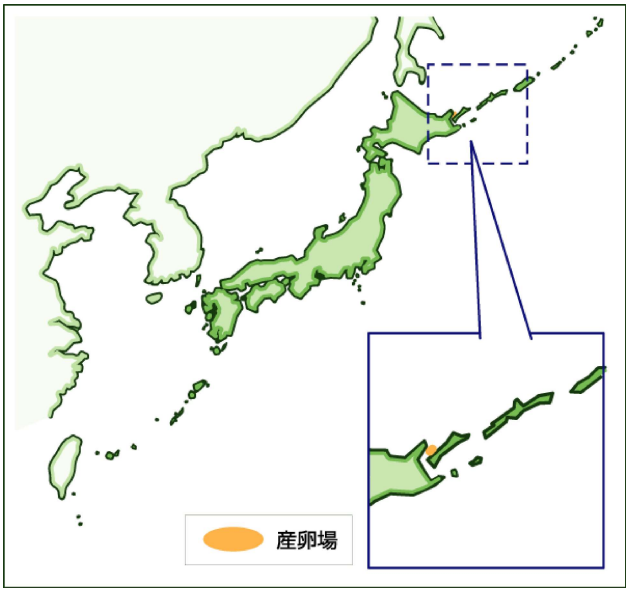
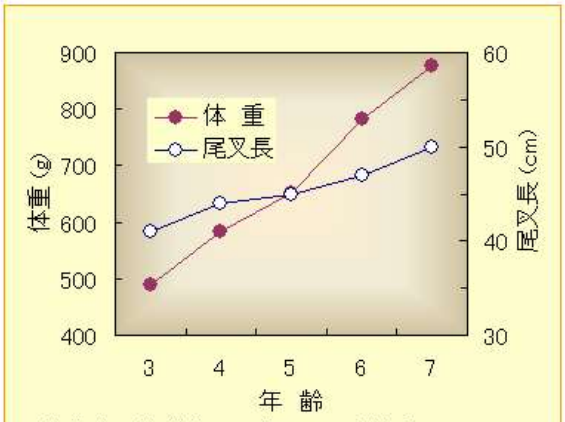
平成１５年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 スケトウダラ
学名　*Theragra chalcogramma*
系群名　根室海峡
担当水研 北海道区水産研究所

生物学的特徴

寿命：　10歳以上
成熟開始年齢：　3歳
産卵期・産卵場：　冬季（1～4月）、根室海峡
索餌期・索餌場：　初夏～秋季、オホーツク海と推測されるが未解明の部分が多い
食性：　オキアミ類、カラヌス類をはじめとする浮遊性小型甲殻類、本海域では、冬季に魚卵および魚類を捕食している個体が多い
捕食者：　海獣類





漁期中の漁獲物の平均尾叉長と体重
漁期(11～3月)と誕生日(4月1日)の関係から、
1歳加齢した満年齢時の値に近い

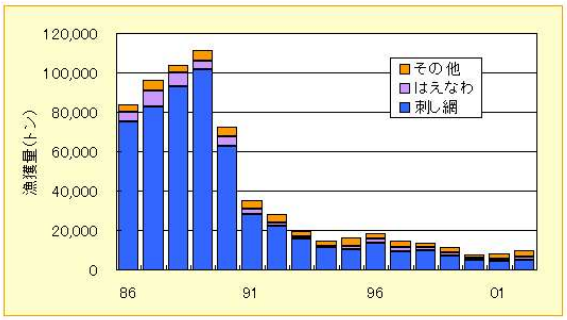
漁業の特徴

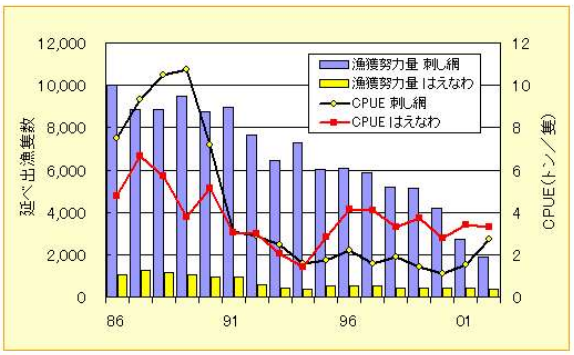
本海域のスケトウダラは、主として刺し網およびはえなわによって漁獲される。主漁期は11～3月である。対象とするのは産卵のために来遊した群である。

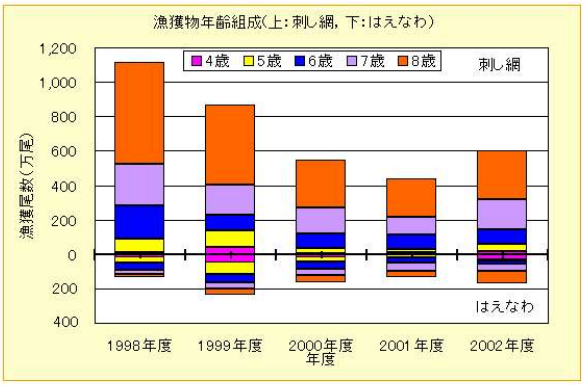
漁獲の動向

漁獲量は、1989年度まで増加を続けて過去最高の11万トンに達したのち急激に減少し、 1994年度には15,000トンまで落込んだ。以後1999年度まで漁獲量は11,000～18,000トン台で低迷を続け、2000年度には１万トンを割り、過去最低の7,587トンとなったが、2002年度には若干増加して9,530トンとなった。近年の漁獲物年齢組成は、4～5歳の比較的若い魚の割合が小さく、加入状況が好転したことを示す情報は無い。日本漁船による漁獲に加えて、1986～1992年度には、ロシアのトロール船団が、根室海峡を含む国後島～ウルップ島沿岸において15,000～172,000トンの漁獲をあげた。1994年度以降資源状態の悪化により漁業は中止されていたが、1997年の冬季には操業を再開し、以後毎年操業を行ったもようである。ロシア側の漁獲状況の報告によると、

1998年および2002年10月末の本水域での漁獲量は、8,000トンおよび2,800トンとのことであった。漁獲量は漁期年（4月～翌年3月）で集計した。







資源評価法

日本漁船による漁獲量とCPUEが情報としてあるが、根室海峡中間ラインより国後島側の漁場では漁法の全く異なる大型トロール漁船による操業が行われており、この操業実態が不明のため資源解析は難しい。しかし、利用できる資料が他には無いため、ここでは、日本側の情報（日本漁船による漁獲量やCPUEの推移、漁獲物組成など）に基づいて、資源状態を推定した。

資源状態

日本側の漁獲量は、1993年度以降2万トンを下回る低い水準となり、1996年度以降は減少傾向を示し、CPUEも1991年度以降低い水準で推移している。加入の回復の兆しも見られず、資源水準は低く、減少傾向にあると判断した。

管理方策

現在の漁獲量は1989年度のピーク時の1割を切っており非常に低い水準にあるため、資源の回復を管理目標とした。資源状態が低位で減少であるため、現在の漁獲水準を引き下げる必要があると考えられる。なお、ロシアは国後島及び択捉島のオホーツク海側の水域における2002年のTACを16,000トンと設定して漁獲規制を実施した模様である。

	2004年ABC	管理基準	F値	漁獲割合
A B Climit	70百トン	0.7Cave5-yr	-	-
A B Ctarget	56百トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 産卵期（漁期）以外の生態情報がほとんど無い
- 主要漁業の刺し網のCPUEが低迷している
- 隣接する国後島側の水域での漁獲状況が不明で、評価が難しい
- 新規加入の回復の情報は無い

資源管理方策のまとめ

- 資源の回復のためには、現在の漁獲水準の引き下げが必要
- ロシア側の漁獲状況の情報収集が必要
- ロシア側もTACを設定して漁獲規制を実施している

資源評価は毎年更新されます。